「ピント外れの勉強」その三　「調べて埋める勉強」

皆さんが学習で使うものの中に、「副教材」というものがあります。教科によって呼び方は違いますが、「〇〇ワーク」とか「△△の学習」などと呼ばれています。期末テスト近くになると、急いで埋めて教科担任に提出するでしょ？あれですよ。

若い時の私はそれを生徒たちにやらせていましたが、ある程度経験を積んでからは、生徒たちにそれを持たせなくなりました。なぜなら、「調べて埋める勉強」になっているとわかったからです。期末テストでは、授業で学んだこと、教科書をしっかり読めばできることしか出さないと決めました。

「ピント外れの勉強」その三は、この「調べて埋める勉強」です。筆者の國立氏は次のように書いています。

「『覚える勉強』と『解く勉強』を混ぜてしまっているため、できる問題とできない問題が混ざってしまうことになります。調べることで答えを埋めた問題は実際にできないことが大半です。これでは×が〇になることはありません。」

副教材を生徒に持たせなくなったきっかけは、ある時の期末テストです。私は、副教材から期末テストの問題を作りました。副教材の問題をそっくりそのまま出すのはためらわれましたので、選択肢の順番を替えたり、選択肢から正解を選ぶのではなく答えを論述させたり、問いも選択肢も内容はそのままにして言葉だけを変更したりしました。

結果は思った通りでした。ワークでは〇がついていても、テストでは少しひねられただけで×になってしまう生徒が続出でした。なぜだと思いますか。それは調べることをやるだけで、深く考えることをしていないからです。中には、埋めた内容が間違っていても〇をつけている勉強をしていて、それでテストに臨むのですから〇が付くはずありません。

副教材が役に立たないということではありませんから、誤解しないでくださいね。「調べて埋める勉強」だけでは力を付けることは十分できないということです。教材の問題ではなく、教材を使って取り組む勉強方法の問題です。

何度も書いていますが、「できないことをできるようにする」「×を〇にする」これらが勉強の本質です。副教材をこなすことが勉強ではなく、副教材を使って深く理解することが必要なのです。

多くの教科で副教材が準備されているはずです。それを使って、どのように理解を深めるのかが意識された勉強を積み重ねることが大切です。

これで「ピント外れの勉強」を三つ示しました。あと二つあります。一、二年生のみなさん、期末テストが返ってきたちょうど今、その二つをやっている人が結構いるかもしれませんよ。あなたは大丈夫かな？

（三月二日　記）